



おおつししょうぼうだん

【しょうぼうだんいんとは】

しょうぼうだんいんとは、しごとをもちながら、じもとをあいするきもちから、まちのしょうぼうだんに入り、かじやさいがいがおきたときに、まちをまもってくれる「ちいきのヒーロー」です。しょうぼうだんいんのやくわりは、まちにとってとてもたいせつなもので、つぎのようなとくちょうがあります。



ちいきとのつながりがふかい

しょうぼうだんいんは、まちにすんでいる人ばかりなので、まちのことにくわしく、いろいろなことをよく知っています。

すぐにこうどうできる

しょうぼうだんいんは、くんれんをうけているので、さいがいがおきたとき、すぐにこうどうできます。

たくさんのにんずうでこうどうできる

しょうぼうだんいんは、ぜんこくでやく80まん人もいるので、大きなさいがいがおきたときでも、たくさんのにんずうでこうどうすることができます。

しょうぼうだんいんのはたらきは、はんしん・あわじだいしんさいやひがし日本だいしんさいでもよく知られていますが、あたらしいほうりつでもしょうぼうだんいんは、まちにとってかけがえのない人たちだとみとめられました。

【おおつししょうぼうだん】

おおつししょうぼうだんは、いまいしょうぼうだんちょうと1,215名のだんいんで、ひるもよるもなくまちのあんぜんをまもっています。

ちがごろでは、おおつしでも大雨によるさいがい、まいとしのようにおきています。とくに、へいせい24年のなんぶごううさいがいやへいせい25年のたいふう18号では、川があふれたり、たくさんの雨水が土や石といっしょにながれていえに入ったりしました。しょうぼうだんの人たちは、まちの人たちのいのちをまもるためにひなんゆうどうをしたり、土のうなどをつかっていえに雨水が入らないようにしました。

このことがみとめられて、そうりだいじんからひょうしょうされました。

【しょうぼうだんちいきぼうさいしどういん】

おおつししょうぼうだんでは、へいせい25年どから、せんもんてきでとくべつなくんれんをして、「ちいきぼうさいしどういん」と名づけて、いま549人がまちの人たちのせんとうに立って、ちいきのあんしんとあんぜんをまもるためにはたらいています。

「ちいきぼうさいしどういん」は、オレンジいろのわんしょうをつけています。

